

第 2 期知床半島ヒグマ保護管理方針検討会議（仮称）について

1. 検討会議の目的

本検討会議は、ヒグマが高密度に生息する知床半島において、ヒグマ個体群を健全に保全するとともに、利用者、地域住民との軋轢を解消することを目的として策定された「知床半島ヒグマ保護管理方針」が、策定されて 5 年を迎えることから内容を見直し改定を行うために設置するものである。

2. 検討会議の体制

本検討会議は知床世界自然遺産地域科学委員会の戦略的な作業グループとして位置付け、科学委員会および各 WG 等に所属する委員、ヒグマ保護管理に係る有識者及び関係行政機関により構成する。事務局は環境省釧路自然環境事務所が務める。

梶 光一 東京農工大学大学院農学研究院
松田 裕之 横浜国立大学環境情報研究院
間野 勉 北海道立総合研究機構環境科学研究センター
山中 正実 斜里町立知床博物館
愛甲 哲也 北海道大学大学院農学研究院
敷田 麻実 北陸先端科学技術大学院大学
森田 健太郎 水産研究・教育機構北海道区水産研究所
佐藤 喜和 酪農学園大学農食環境学群環境共生学類
増田 泰 公益財団法人知床財団

○関係行政機関

林野庁北海道森林管理局
北海道庁
斜里町
羅臼町
標津町

3. 検討の枠組み

見直しに当たっては平成 27 年度に開催した「知床半島ヒグマ保護管理方針検討会議（総括会議）」で出された課題と評価に基づき、専門家の科学的知見及び行政機関による対策状況をもとに見直しを行い改定作業を進める。なお、第 2 期保護管理方針の運用にあたってはこれまでと同様に地元関係者の理解と協力が不可欠であるため、改定作業に当たっては地元説明会の開催等により地元関係者との合意形成を図った上で改定する。また、検討状

況については地域連絡会議、科学委員会及び適正利用・エコツーリズム検討会議に適宜情報提供を行う。

4. 検討スケジュール

○第1回検討会議（6月10日札幌市）

第1回会議では、最初に本年度の検討スケジュールについて確認する。続いて、平成27年度に開催した総括会議で出された課題・評価を基に、第2期保護管理方針の方向性を確認する。特に捕獲数上限及びゾーニング・行動段階について議論を行う。

○第2回検討会議（9月頃を予定）

第1回会議での議論結果を踏まえ、捕獲数上限及びゾーニング・行動段階について案を記載した骨子案を提示する。骨子案について詳細を検討するほか、利用者対策及びモニタリングについて議論を行う。

○地元説明会（12月頃を予定）

第2回会議での議論結果を踏まえ、利用者対策及びモニタリングについて案を加えた素案をもとに地元への説明を行い、必要に応じて意見の反映、修正を行う。

○第3回検討会議（1月頃を予定）

地元説明会結果や住民アンケート結果を踏まえた修正案をもとに、第2回検討会議で積み残しとなった課題を中心に細部を検討したうえで、検討会議としての改定案のとりまとめを行う。